

株式会社エム・オー・エム・テクノロジー

人間力で医療に貢献し、「開業以来、赤字決算なし」を実現 ——医療ICTシステムのエキスパート

ここに注目!

医療情報システムの草分けで、豊富な実績に裏打ちされた技術力を持つ
市場が未開拓の中小規模病院に強く、成長の余地が大きい

新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) の拡大で、医療現場の逼迫が問題となった。実は医療機関では診察や治療、検査よりも、患者の状況記録や報告と、情報共有に費やす時間の方が長いとも言われている。コロナ禍で医療崩壊寸前に追い詰められた教訓からも、医療のICT化は「待ったなし」の喫緊の課題。そうした医療ICTソリューションで日本を代表する企業が、エム・オー・エム・テクノロジー (MOMTEC) だ。

MOMTECは富士通が開発した医療情報システムに同社独自のパッケージ製品を組み合わせ、全国の病院や健診センターへ最適なシステムを提供している。設立は1964年、三菱商事がICT機器の専門商社としてMOMTECの前身となる三菱事務機械販売 (MOM) を設立したのだ。ところがMOMTECの母体となる九州支社は、販売に苦戦を強いられていた。なぜなら九州は支店経済。

ICT設備を売り込んでも、東京や大阪にある本社で決裁されるため、交渉はなかなかまとまらなかった。そこで、「医療機関向けにICTを売り込んでどうか。病院はほとんどが独立しているので、九州にも決裁権者が大勢いる。商談もスムーズに進むだろう」と発案し78年に富士通の医療情報システムの販売を始める。これが当たった。九州で顧客を増やすことに成功し、事業は拡大。94年にMOMは医療事業に特化した医療事業本部を立ち上げて、全国展開することになる。これに併せて自社開発製品オーダリングシステムの「Power Hospital」やWindows版健診システムの「LANPEX」、検査システムの「LANCIS」などを発売する。2001年には三菱商事の情報関連子会社5社の統合合併に伴い、三菱商事と富士通の支援を得てMOMから分離・独立し、「株式会社エム・オー・エム・テクノロ

ジー」として再出発した。

MOMTECの強みは独立にも関わった富士通とのパートナーシップだ。国内シェアの高い富士通の電子カルテ (EMR) システムに、MOMTECの小回りのきいたオプションシステムを組み合わせることで、個々の医療機関に最適な使いやすいシステムを提供できる。その代表的な商品が2008年に発売した精神科病院向け電子カルテシステムの「MOMACE」。精神科は患者1人当たりのカルテの文字量が多いという特徴があり、内科や外科などの他科向けの電子カルテシステムでは対応が難しい。そこで精神科に特化したシステムを開発した。

大規模な医療機関では電子カルテシステムはパソコン300台以上での使用を想定しており、中小規模の医療機関では使い勝手が悪い。また、精神科は一般的な病院では求められない機能を求められることが多いため、MOMTECは



お客様との打合せや他の社員との打合せにWEB会議システムを使用しています



社歴関係なく全員が意見を出し合える社風です



多くの女性社員が総合職として活躍しています



営業Sさん (左)・コンサルタントTさん (中左)・営業Hさん (中右)・アシスタントMさん (右)



営業とコンサルタントの各担当が協力し合い、システムの導入を行います

このような課題を抱えている顧客を多数抱えていた。同社は精神科に特化した製品開発や富士通製の電子カルテシステムの販売を通じて、電子カルテシステムのノウハウを持っている。今後、中小規模の医療機関で電子カルテの採用が進むのは確実で、MOMTECにとって非常に有望な市場が広がっている。2020年10月には「新MOMACE」を、同11月には電子カルテのデータとAI (人工知能) を活用してレセプト (医療報

酬の明細書) が適正に処理されているかどうかをAIで判断する「a.iブレーン」を、それぞれ発売した。

新製品も出揃い、さらなる成長を目指すMOMTECが力を入れているのは人材育成だ。同社では「人と情報と技術の融和」を企業理念に掲げており、昨日とは違う新しい発想で毎日進化している人材を求めている。全社員を対象にした年2回の上司との面談では個人目標について話し合い、達成が

難しいようなら解決に向けて支援や教育したり、別の目標に変更したりするなど、手厚いフォローをしている。社員からも「いつも通りにやっていたのでは達成できない目標だが、上司は親身に相談に乗ってくれる。日々成長を感じさせてくれるし、達成できた時の喜びは大きい」との声が上がる。一つの時代も製品を開発するのは人。人間力こそが社会に貢献できる企業づくりに必要なことをMOMTECは知っている。

「わが社」を語る

代表取締役社長
平山 光彦氏



「人間力」「情報力」「技術力」を日々進化

わが国の電子カルテ (EMR) 普及率は一般病院で47%弱です。100%を目指すのは当然ですが、EMRは医療機関同士のデータ共有が完全にはできていないため、患者の情報は同じ医療機関内でしか利用されていないという問題があります。将来は他の医療機関でも患者の医療データを利用・追記できる電子健康記録 (EHR) や個人健康記録 (PHR) と連携した医療情報

システムの先駆者になりたいと考えています。さらにはEHRやPHRのデータからAIを使って診断を支援するシステム開発も目指したい。そのために社内一丸となり、「人間力」「情報力」「技術力」という三つの力を日々進化させています。「ICTの力で医療現場を良く変えていきたい!」との思いで社会に貢献していきます。

会社 DATA

所在地：東京都千代田区神田佐久間町1-9 第7東ビル

創業・設立：2001年3月

代表者：平山 光彦

資本金：5,000万円

従業員数：92名 (2021年3月1日現在)

事業内容：医療関連情報システム構築、システム・コンサルティング、運用サービス、システム・インテグレーション・サービスなど

URL：https://www.momt.co.jp/

